



18歳からの選挙権 現役高校生からの生の声

今年まさに18歳になる若者のひとりとして意見を提供します。いわゆる「新参者」が政治に加わることで、「大丈夫か?」という考えに、責任の重みを感じています。ただ私が思うには「若者の政治的教養の育成ばかりに気を取られていないか?」「今まで投票権のあった大人たちは権利の所有者としての自覚を持っていたか?」という疑問を抱かざるを得ません。

なぜなら、今の政界の腐食具合だけでなく、投票率の低さです。この政治的関心の低さが、政治の墮落の原因のように思えるのです。そういう意味でも、我々高校生だけでなく、国民全体の政治的教養の向上をこの機会に望みます。

さて、送ってもらった資料ですが「素晴らしい」の一言です。私は「高校生の教育」に固執して、盲目になっている社会にウンザリして、この資料も「どうせ高校生の責任が〜」といったものだろうと身構えていました。

しかし読んでみて何より衝撃的だったのが、「基本認識として一人への主権者教育について」の部分です。私の言いたいことがほとんど記されていました。「社会全体で政治的教養を高めること」の重要さが書かれており、こう言った大人がいるなら我々もしっかり学び、立派な主権者になりたいと思いました。

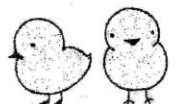
そしてもう一つ、「中身のある教育内容」についての説明です。「高校生の教育が必要」などといった空っぽの言葉ではなく、この意見書は非常に具体的に、要求・課題を示していると感じました。

学校への要求、地域の役割、PTAの責務、社会全体の役割など、各々の目指すべき地点が明瞭に記されていて、すんなりと頭に入ってきました。そして最後にマスコミの公平性について、しっかり触れていました。すべて私の思うことが載っていて、とてもためになりました。(要旨)

以上は、Aさんがお孫さんに資料として「全国高校PTA連合会18歳選挙権に関する意見」(前号で紹介)を送られての返事です。

全国高校PTA連合会のメールアドレス
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/118/shiryo/attach/1363102.htm

(4/21 中日)
岐阜県、高校生の郊外での政治活動
届け出不要。(県教育委員会の方針)



明日も帰れない

かないたかこ (右崎)

4月12日の「朝日」の「WILDERONNA」に「ポーランドの民主主義があぶない」と載った。

ポーランドでは今、現政権「右派司法とシャーパーリズムへの露骨な介入が進み、「政府が民主主義を弱体化させる措置を矢継ぎ早(や)し(ぎ)は(や)に導入しよう」と主張。これに対し、NGO「国境なき記者団」が、抗議の声明を出したという。

まず憲法裁判所、次に報道機関の独立性を制限するなど、この国の現実と似ているのでは?とあった。

私は、8日にハンガリー映画「サウルの息子」を「岐阜シネックス」で観てきた。

ナチスによるユダヤ人の大量虐殺の時代、ユダヤ人の死体処理に従事させられるハンガリー系ユダヤ人の話である。

いつにない40人を超す人が入っていて、私は驚いた。岐阜も捨てたものではないと。その矢先の記事である。

ポーランドは、自国の中に、アウシュビッツとヘウムフの2ヶ所に絶滅収容所、4ヶ所に強制収容所。その上「トブレリンカの悲劇」まで抱えた国であるにもかかわらず、その屈辱からか、戦後ナチスに蹂躪(じゅうりゆ)されたフルシャワの街並みを、飾り物一つまでも丁寧(ていねい)に復元させたという国なの…。

今も、街で歌われているというバルチザンの歌「今日は帰れない」のシヤンソン(NHKBSKの加藤登紀子さんの話)の落差がやられました。

DVD上映会 「わが青春に悔なし」



原節子追悼シリーズ第一回は、学問の自由と大学の自治に対する弾圧事件として知られる「京大滝川事件」を題材にした「わが青春に悔なし」(一九四六年 黒澤明監督)

帝国大学教授だった父親は大学を追われ、妻や娘と暮らしている。その家へは教え子の大学生たちが出入りし、娘幸枝を交えてピクニックなどを楽しんでるが、その中の一人、糸川と野毛はそれぞれ幸枝にひかれていた。卒業後は糸川は検事になり、野毛はいわゆる左翼の反戦運動に身を投ずる。幸枝は上京して自活を始め、生き方にひかれて野毛と結婚するが、野毛は逮捕され、獄死する。

夫の老親を助けてひたむきに農婦として生きる幸枝。その家族を村人たちは「スパイ」「国賊」と呼んで石を投げ、植えた苗を抜き捨てたりして迫害する。

野毛の故郷に来た糸川が、「野毛は道を誤った」と言うが、幸枝は「どっちの道が正しかったかは、時が裁いてくれると思いますわ」とりんと言い返す。再び戦争前夜かと思わせる昨今、この映画の問いかける意味は重いものではない。

4月16日、岐山町公民館で、300名の参加でした。下記はお寄せいただいた感想文の一部です。

島尻尚子 (長良東校区)

感想文

何が一番大切かを、この映画は問いかけていました。また、普通の庶民があつた時代の軍国主義への流れを、さらに加速させていたことがよくわかりました。

自由を守るためには、覚悟を持つてのぞまなければならぬ。今の政治の流れに抗して、やれる限り頑張ろうと思えました。

太平洋戦争の時はまだ生まれてませんが、終戦の年に生まれて71年になります。親よりよく聞かされた、当時の時代が思い出されてきます。

これからこのような時代が来てはいけないと思います。力がなく平和的な生き方を世界に向けて実行する世の中になっていきたいと思います。

新日本出版社「社会科学総合辞典」より

京大滝川事件 「満州事変」以後の急激な軍国主義化のもとで、自由主義者の京都帝国大学刑法学教授滝川幸辰(たきがわ ゆきとき)の刑法学説が「国体 に反する」として攻撃的とされ、鳩山一郎文相によって1933年5月25日休職処分が発令された。これに抗議して、京大では法学部教授会が総辞職を決議し、学生も「学問の自由、大学の自治」をまもる運動にたちあがり、東大はじめ全国の学生がこれに呼応して戦前最大で最後の学生運動を展開した。運動は敗北したが貴重な伝統を残した。



今後の上映予定

5月28日(土) 「青い山脈」(正統) 今井正監督 松籟団地集会所
6月18日(土) 「東京物語」 小津安二郎監督 中川原公民館

5・3憲法施行69周年記念講演会

「改憲の嵐に抗して、今こそ日本国憲法を選び取る」

2016年5月3日(祝) 岐阜市文化センター(小劇場)

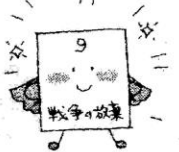
講師 金杉美和さん(空飛ぶママさん弁護士)

14時〜朗読劇「夜空の下に降る花は」(岐阜空襲)

14時45分〜講演会

(資料代500円)

(主催) 憲法改悪阻止各界連絡会議・憲法の条を守る共同センター



2016年

「報道の自由度」日本は72位

(2015年は61位)

国境なき記者団発表

秘密法などが影響、政権批判などでメディアの独立性を失っている。

「9の日行動」のお知らせ

5月9日(月)3時半〜4時

長良高校・岐山高校前

(雨の日は16日)

現在「戦争法廃止」統一署名は415筆になりました。

まだ手元にお持ちの方は、締め切りになりますので、至急事務局の方へお知らせください。

<連絡先>

長良(林)090-6769-9809

長良東(島尻)231-1026

長良西(後藤)233-0838